

## ～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課名 リハビリテーション領域における低反応レベルレーザーの治療成績』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 整形外科 職位・氏名 教授・武者芳朗

### 【試料・情報の利用目的】

低反応レベルレーザー治療とは出力の低いレーザー光線を生体組織に照射し、創傷治癒促進、血流改善、疼痛緩和の効果を得る目的で行う物理療法のことです。当院においては、主に頰椎症性脊髄症や腰部脊柱管狭窄症で、脊椎の手術（椎弓切除術や椎弓形成術）を受けた患者様に対し、術後に遺残する疼痛の緩和を目的に理学療法士が物理療法の一環として、治療を行っております。治療期間としては入院期間中（約2週間）で、週5日、照射部位は状態に応じて、創部・創部周囲・疼痛部位を選択し、10分間照射を行います。

取得した試料・情報はリハビリテーション領域における低反応レベルレーザー※の治療成績を明らかにすることを目的とした研究に利用します。

この研究で得られる成果は、リハビリテーション領域における低反応レベルレーザー治療の適応選択の一助となり、リハビリテーション効果の向上や低反応レベルレーザー治療による疼痛、血流、日常生活動作能力との関連の解明につながります。

### 【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

### 【研究に用いられる試料・情報】

情報：病歴、年齢、性別、画像評価（単純X線や単純CT画像、MRI画像）、疼痛評価（Visual Analogue Scale）、血流量、日常生活動作能力評価（Barthel Index）等

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

### 【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2023年12月1日より利用を開始します。

### 【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

情報の提供を行う期間はありません。

### 【試料・情報の取得方法】

対象者：2017年9月1日～2022年8月31日までに東邦大学医療センター大橋病院のリハビリテーション科において、理学療法士の判断のもと、リハビリテーションの一環として、低反応レベルレーザー治療された方（約60症例）とする。観察期間は1年間とし、2017年9月1日～2023年8月31日までの診療録データを使用する。

方法：低反応レベルレーザーを照射した症例の治療前後の疼痛、血流量、日常生活動作能力を診療録（カルテ）から抽出したデータを抽出し、解析をします。

**【研究組織】**

代表施設名: 東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者: 武者 芳朗 役職: 教授

**【利用する者の範囲】**

該当なし

**【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】**

東邦大学医療センター大橋病院 リハビリテーション部 下山 渉太

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方は、2024年2月29日までに(過去に採取した既存試料を利用する場合)下記へご連絡下さい。申し出のあった方の試料・情報は、利用を行いません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。また、有効な説明と同意が困難な人は代諾者から研究に関する問い合わせが可能です。

**【連絡先および担当者】** 東邦大学医療センター大橋病院 整形外科

職位・氏名 教授・武者芳朗

電話 03-3468-1251 内線 2032